

医療現場における

6 R ②

6 Rにおける与薬ミス防止

1

与薬の前に

患者の状態
薬剤禁忌
アレルギーの有無など

対象患者の把握を行う
薬剤を投与する目的
薬剤の知識も必要

薬剤の準備

作業は中断しない

中断した場合は、再度手順の**最初から**準備を実施する

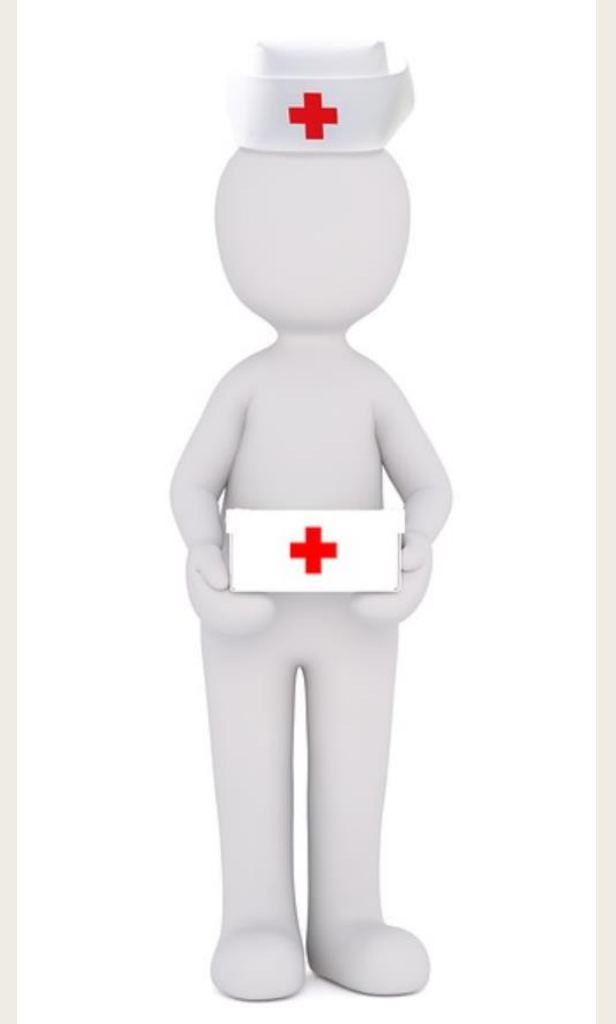
ミスは新人が起こすことも多いが、経験豊富な方々も要注意

与薬に対する緊張感は常に持ち続ける



1) 与薬の準備の共通事項

- ① 処方箋の記載内容と薬剤の記載内容について6R確認
- ② 使用する薬剤の作用
年齢や性別
アレルギーの有無など
- ③ 同意を得る



2) 剤形別特徴と投与の手順

(1) 経口内服薬

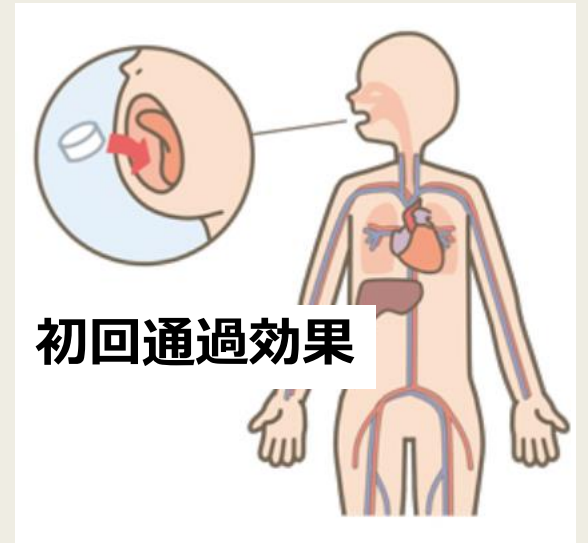
①特徴 **錠剤、丸薬、カプセル、粉末、液体など**

内服薬は飲み忘れや飲み間違いが効果に大きく影響する

服薬指導や服薬管理が重要

患者さんには内服薬の重要性を十分理解してもらう

嚥下や排泄状況も効果に影響するので
常に全身状態を観察、アセスメントし必要時に説明や援助を行なう



②準備

- ・ 経口摂取状況や消化器症状の有無を確認し、経口内服が可能かアセスメントする。
- ・ 衛生的な手洗いをする。
- ・ 使用物品として処方箋、薬剤、薬袋、吸い飲みやコップに水か白湯を準備する。
- ・ 患者さんにこれから行う与薬方法、所要時間について説明し同意を得る。
- ・ 患者さんを坐位が可能な場合は坐位に、坐位がとれない場合はギャッジアップ等で頭部を挙上し、嚥下しやすい姿勢に整えます。

